

88

K

2026年度

簿記・会計

問題冊子(1～3ページ)

注 意 事 項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙の該当欄に正しく記入すること。ただし、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部に受験学部・学科コード、受験番号、氏名を記入すること。

〔Ⅰ〕 次の文章を読み、問 1 および問 2 に答えなさい。

販売または製造のために保有する商品、製品、(①)などの資産を棚卸資産という。棚卸資産を購入した場合には、購入代価に引取運賃や購入手数料などの(②)を加えた金額を取得原価とする。

適正な(③)計算を行うためには、資産の取得原価を当期の費用と次期以降の費用とに配分する必要がある。これを(④)の原則という。商品の場合であれば、期首商品棚卸高と(⑤)高の合計のうち外部に販売された部分が当期の費用(払出価額)となり、損益計算書に(⑥)として表示される。また、販売されなかった部分は次期に繰り越され(期末商品棚卸高)、商品として貸借対照表に表示される。

問 1 文中の()内の①から⑥に当てはまる語を答えなさい。

問 2 棚卸資産の払出価額および期末商品棚卸高を決定するためには数量および単価の計算が必要となる。単価の計算方法を 2 つあげなさい。

〔Ⅱ〕 次の取引を仕訳しなさい。なお、商品売買の処理には 3 分法を用いること。

- (1) 関西商店は、電子記録債権 ¥ 370,000 を取引銀行で割り引くために電子債権記録機関に譲渡記録の請求を行い、割引料 ¥ 6,400 を差し引かれた手取金が当社の普通預金口座に振り込まれた。
- (2) 愛知商店は、額面 ¥ 2,000,000 の国債(満期 10 年)を ¥ 100 につき ¥ 98 で購入し、代金は買入手数料 ¥ 20,000 と共に普通預金口座から支払った。なお、愛知商店はこの国債を満期まで保有するつもりはなく、時価の変動により利益を得るつもりもない。
- (3) 北海道商店は、九州商店に商品 ¥ 400,000 を売り上げ、内金 ¥ 100,000 を差し引いた残額は掛けとした。なお、送料 ¥ 30,000(北海道商店負担)は現金で支払った。
- (4) 東北商店は、得意先の仙台商店に事務用に使用していたコピー機(取得原価：¥ 200,000 減価償却累計額：¥ 160,000)を当期首に ¥ 50,000 で売却した。なお、代金は月末に受け取る約束をした。
- (5) 関東株式会社は、発行済の自社株式のうち 50 株を 1 株につき ¥ 50,000 で取得し、代金は買入手数料 ¥ 80,000 とともに普通預金口座から支払った。

〔Ⅲ〕 次の(資料)は、小売業を営む株式会社 X 社の総勘定元帳の勘定残高の一部である。この(資料)に基づいて、(1)から(4)の金額を答えなさい。

(資料)

繰越利益剰余金	¥ 315,000	クレジット売掛金	¥ 380,000	配当平均積立金	¥ 56,000
買掛金	260,000	現金預金	320,000	貸倒引当金	9,000
借入金	700,000	資本準備金	200,000	備品減価償却累計額	140,000
備品	350,000	仮受金	6,000	資本金	8,000,000
未払法人税等	34,000	新株予約権	110,000	利益準備金	257,000
新築積立金	80,000	自己株式	222,000	電子記録債務	440,000

- (1) 負債
- (2) 株主資本
- (3) その他利益剰余金
- (4) 純資産

〔Ⅳ〕 次の(資料1)および(資料2)に基づき、Y 商事株式会社(決算年1回)の精算表の()内の①から⑩に当てはまる金額または語を答えなさい。なお、決算日は2025年3月31日である。

(資料1) 決算にあたり調査した結果、次のことが判明した。

- 1 仮払金 ¥ 60,000 は、従業員負担の保険料を立て替え払いしたものであった。
- 2 現金の実際有高は ¥ 234,400 であり、帳簿残高よりも ¥ 5,000 少なかった。その原因として、切手代(使用済み) ¥ 4,700 が記帳漏れであることが判明した。なお、残額は不明である。

(資料2) 決算整理事項は次のとおりである。

- 1 期末商品棚卸高は ¥ 141,000 である。なお、売上原価は仕入の行で計算すること。
- 2 売掛金の残高に対して 2 % の貸し倒れを見積もる。差額補充法によること。
- 3 備品について定額法により減価償却を行う。
備品(取得原価：¥ 450,000 耐用年数：5 年 残存価額：零(0))
- 4 家賃は、毎年9月1日に向こう1年分を支払っており、過去5年間同一額であったが、2024年9月1日より月額 ¥ 5,000 値上がりした。
- 5 借入金 ¥ 420,000 は、2024年6月1日に年利率 2 %、2025年5月31日返済の契約で仕入先から借り入れたものであるが、利息は返済時にまとめて支払う契約であるので、利息を見越し計上する(月割りで計算する)。

精 算 表

2025 年 3 月 31 日

(単位：円)

勘 定 科 目	試 算 表		整 理 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	239,400							
普 通 預 金	413,900							
売 掛 金	710,000							
貸 倒 引 当 金		2,000						(⑧)
繰 越 商 品	113,000							
仮 払 金	60,000							
備 品	450,000							
備品減価償却累計額		180,000						(⑨)
買 掛 金		538,300						
借 入 金		420,000						
資 本 金		1,000,000						
繰越利益剰余金		169,000						
売 上		1,024,000				1,024,000		
仕 入	379,000				(④)			
給 料	285,000							
水 道 光 熱 費	81,000							
消 耗 品 費	32,000							
支 払 家 賃	570,000				(⑤)			
	3,333,300	3,333,300						
(①)			60,000					
(②)			4,700					
()			300					
貸倒引当金繰入								
減 価 償 却 費								
() 家賃								
支 払 利 息					(⑥)			
(③) 利息								
当 期 純 損 失						(⑦)	(⑦)	
							(⑩)	(⑩)